

ハウスきゅうり栽培管理指導会資料

定植苗について

①きゅうり栽培は接ぎ木苗が主力である

○購入苗 ～ 断根の苗が主である。胚軸から発生した不定根は、それぞれが細く根圏も比較的浅い。しかし、初期の株元灌水等で、根量を多くし密度を高めれば草勢維持は容易。

★断根からの不定根は細く浅い根圏で、ベッド内部中心に張る。

★通路に根が見えても、その根が永遠に丈夫である期待は薄い。そこで、断根苗は定植前後のハウス内温度・地温・水分等の環境をより良くし、ベッド内の根の量・密度を如何に増やす事が出来るかが大切である。

②購入苗の注意点

○輸送の問題などで鉢水分が少なく乾いているので、到着後は箱から出し、鉢水分の補給を行う。以降、数日間は管理をしながら圃場に置いて馴らしを行う。その後、穏やかな日に定植を行う様にする。

★馴らしを行う際は苗が直接的な風を受けない方が良い。クルクル換気等のサイドからの風は内張り越しにしたい。寒い時期は夜間にトンネル被覆をする。

定植～活着まで

○最低地温 18℃以上を目指す。そのため、早めにトンネル被覆を行い地温の保持に努める。

○土壌水分・空中湿度も共に充分確保する。

○根鉢の乾き具合に注意を払い、株元手灌水（ぬるま湯）を随時行う。

○1条植/畦幅 1.5～2.0mもしくは2条植えの抱きベッド株間は 45～50 cm

★地温はベッド表面下 20 cm位で測る（18℃以上）。

★植え穴を開けた後に、穴毎 20 程度の水を与え、水が退いたら粒剤（殺虫剤・殺菌剤）を施し、土壌混和してから定植する。

★株元手灌水は、定植時および定植以降も活着までとは限定せず、根鉢が乾いてきたら行う。その際に、肥料や発根剤、植物活性剤等を施すと良い。

★定植直後は保温に努める。

午前 30℃以上目標（40℃まで）

午後 2～3 時頃に 25℃下回る様なら換気を閉め始める

日没時に 15℃は確保したい。

生育初期の注意点①

★活着後は徐々に水を控えて行くが、根鉢が乾いたら随時株元手灌水を行う。灌水チューブ等の多量灌水は地温を下げ過ぎないように注意する。特に、水温が 10℃以下の多量灌水は葉の白化症を引き起こすので注意する。

★外気が低い（日中 10℃以下、夜温 5℃以下）場合は、トンネル開放を遅らせ、ハウス内が 20℃以下なら早めにトンネルを掛ける（午後 3 時以降）。

★温暖な日にサイド換気を行う場合、腰下（クルクル換気）からのダイレクトな風は避ける。できれば内張り越しの間接換気が良い。

ツル上げ直後の芯焼け等を防ぐためにも間接換気か肩換気が望ましい。ハウス肩部からの換気は空気の対流効率も良い。

★下段の芽かきは早く行った方が傷口は小さい。傷口が乾き易い様に温暖な日の午前中に作業を完了する。

★下葉整理（摘葉）は、葉の小さい 1～3 枚目位までは枚数にカウントしなくても良いが、比較的葉の大きい 4 枚目以降は、1 度に 2～3 枚程度にとどめる。

一番果開花～収穫始め頃までの注意点①

○生育が順調な場合は、主枝の 7～9 節から着果させる。ただし、下節位に過着果して草勢を弱めそうな場合は 12 節以下の雌花着果を上位の 3 果までにする。

○雌花開花数が増すごとに、徐々に灌水を増やしていく。

○ハウス内湿度の過不足が起こらない様に、通路の乾き具合には充分注意を払い、随時、通路灌水等を行う。

○収穫開始時の草姿は、本葉が 16～17 枚展開し、生長点より 5 枚位下で雌花が開花している状態が良い。

○主枝一番果の開花、肥大頃より少量ずつの灌水・追肥を行っていく（うすい液肥など）。

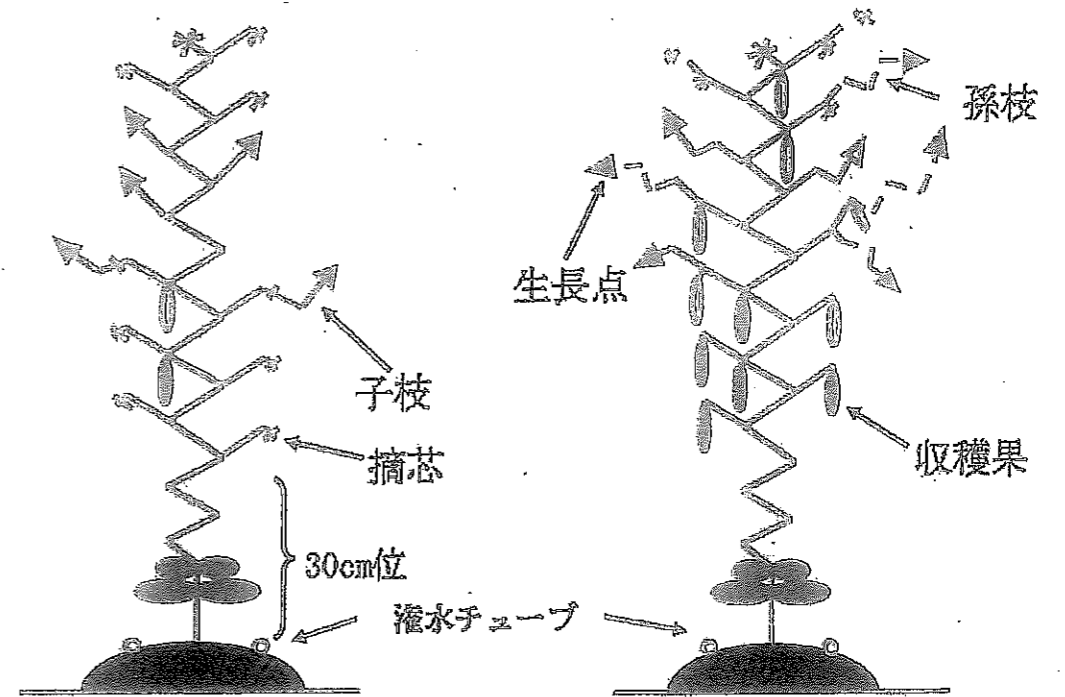
○草勢維持のために 9～10 節位からの側枝を 1～2 本位放任し、力枝とする。

一番果開花から収穫始めまでの注意点②

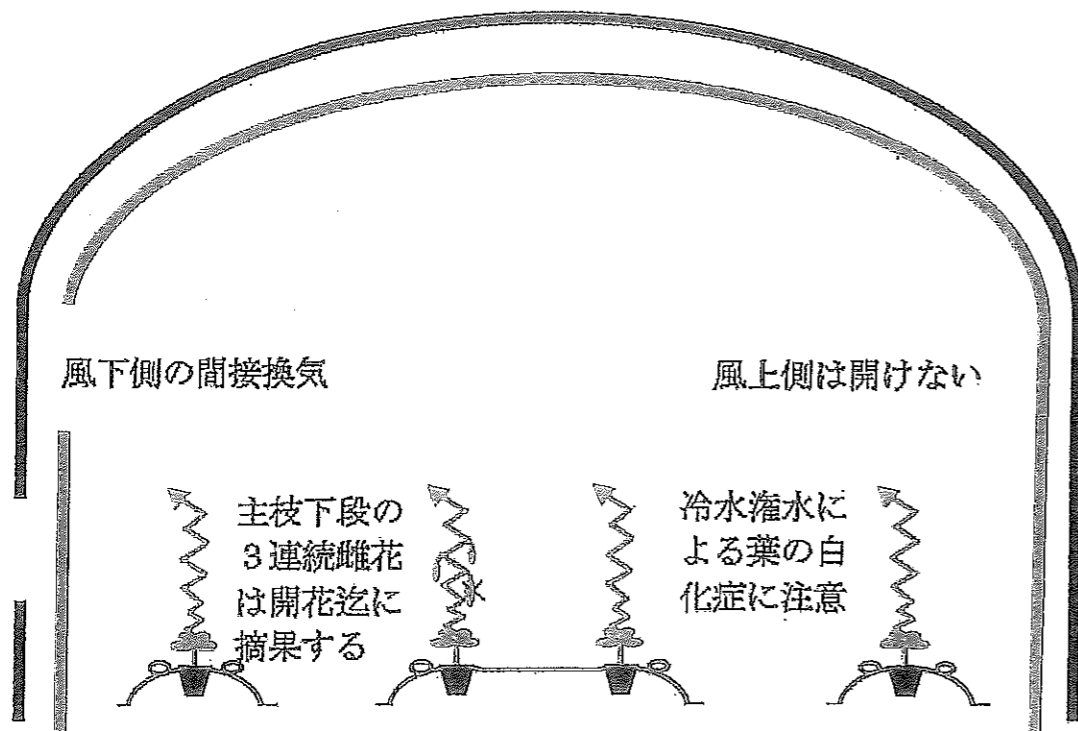
- ★サイドからの強風に注意。カーテン越しの肩換気が良い。
- ★晴天日の空中湿度低下に注意。湿度 40%以下で樹は硬化する。
- ★曇雨天など、湿度 60%以上が長時間続くと病気が発生し易くなる。
- ★ウドンコ病は乾きで発生、蒸れ込みで広がるので、ウドンコ病と褐斑病の同時発生は良くある（耐病性品種はこの限りでは無い）。
- ★温度目標（晴天時）

午前 10 時前後	25~28℃程度（湿度 80%）
正午頃	28~30℃程度（湿度 40%）
午後 2 時	23~25℃程度（湿度 40%）
日没時	15℃程度
最低夜温	10℃以上
- ★主枝下段の果実は、低温乾燥条件で奇形になり易い（短形、肩張り、イボからヒゲや葉が出るなど）
- ★下段側枝の無着果節は節数にカウントしないか、切り戻しを行う。
- ★追肥は液肥に限らず、化成肥料も併用して行く。肥料粒が溶け切れなくても 7 割程度は効いている。曇雨天時には水分を伴わないので化成肥料が良い。また、ペースト肥料等の土壌灌注も曇雨天時や収穫盛りの前に施しておくが良い。

放任枝（生長点）と収穫のイメージ



ハウス換気のイメージ



定植

活着はじめ

活着

果実開花・肥大

主枝摘芯～収穫はじめ

収穫最盛期

2.5枚

～7枚

10枚～13枚

17枚～19枚

← 活着促進 →

← 節間長の確保 →

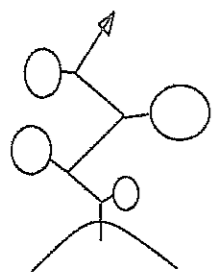
← 側枝・孫枝の発声+下段果実の肥大 →

乾燥を避ける。高温多湿で、風が入らぬように！
 内張りがある場合、極力開けない。
 サイドカーテンの開閉に注意！

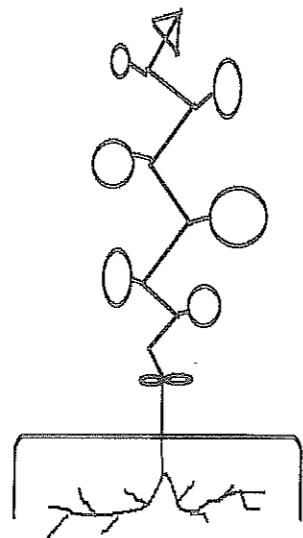
湿度、温度を徐々に下げ通路、ベットの水分を抜き、
 側枝、孫枝の徒長を抑える。
 樹勢が弱い場合は積極的灌水。

摘芯直前の果実数が増加する時期に樹勢を強くるす。
 積極的に追肥・灌水
 摘芯前に強い芯の確保と確認。
 この時期、細い場合 N 成分で 0.5 kg/10a 液肥

7日で最大葉 18 cm
 節間長 8 cm 茎径 8mm



ベット 通路に水分 7割
 土中水分 8割



株元、灌水から全体へ！

節間長 10 cm 茎径 9mm
 最大葉 25 cm

